

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた余呉の町で私らしく元気に暮らそう。」という理念を掲げている。余呉町以外からの入居者もおられるが、心豊かにその人らしい生活が続けられるように実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては、地域の一員として自治会に入り、防災訓練等の行事に参加したり、日常的にごみ当番をしたり、野菜を頂いたりし交流がある。 ただ、外出行事に参加できる利用者や時間が限られてしまっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し実際にふれあってもらう事で、認知症に対する理解に繋げている。電話での問い合わせには常時応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、定期的開催しこぶしの家の状況を報告している。また、助言や意見を、職員間で共有しサービスの向上に役立っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を提出したり、認定調査や福祉サービスの利用について相談しているが、積極的とは言えない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のため施錠している。日中はいつでも出入りできるよう開放しており、利用者の希望があれば外出。一人ひとりにとって適切な苦痛のないケアを目指し、3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受講し、虐待について理解し、利用者の身体に傷やアザがないか気をつけて見ている。発見した際は、職員間で情報を共有し、不適切なケアを行っていないか等、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を必要とする利用者はいないため、活用するに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書類とともに説明を行い、利用者や家族等と話しをし、不安や疑問点を聞きだすよう努めている。改定時も気楽に質問してもらえるように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や必要時に家族と連絡を取り意見や要望を伺い、職員間で共有し運営に反映出来るよう話し合っている。家族会が開催出来ていないため、充分ではない。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの他、ケアカンファレンス、面談等で、職員からの意見、提案を取り入れている。日常的にも言いだしやすい環境づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭状況や、体力、能力を考慮し希望に沿った勤務を組めるように努めている。内部研修や外部研修、資格取得を促し向上心が持てるよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員が法人内研修を受講できるように、取り組み、学んだ事を職場で活かせるようにしている。 職員の力量を把握し外部研修受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北介護サービス事業所GH部に属し、管理者は同業者との交流や研修を行っている。また、同法人のGHと意見交換等をおこない、サービスの向上に活かしているが、職員にも交流の場が増えればと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に本人から言い出される事は少ないので、事前調査や家族、CMからの情報を職員間で共有して、本人の不安を少しでもやわらげる声かけ、雰囲気作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの様子や困りごと、介護に対する意向を丁寧に聞き、継続して出来る事や、支援の仕方について話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望されても、必要かどうか判定し、現状に合わせた助言や、サービス対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事や季節のもの(味噌、梅干し等)づくりを一緒に行い、常に感謝を伝えることで共に支え合いながら暮らしているという関係を築いているが、介護度の高い利用者とのコミュニケーションをとるのは難しい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月手紙でご様子をお知らせし、面会時や受診対応して頂くことにより、一緒に過ごせる時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人からの年賀状に返信したり、馴染みの美容室に訪問してもらっている。家族様の面会は頻繁にあり、一緒に外出されることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、相性、身体状況を考慮し席替えをしたり、作業、レクレーションを行い、利用者が孤立しないように努めている。自立度の高い方は、周りに気を配ってくださっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事例はないが、年賀状を頂いたり、衣類、タオル等寄付して頂くことがあり、関係は続いている。相談事があれば支援していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から聴き取れるように努めている、困難な場合は表情や仕草から読み取り、一人ひとりの思いに寄り添い、安心して生活ができるように職員間で共有、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、知人、利用したサービスから情報を得て、趣味や生活歴を把握し、生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝昼2回のハイタルチェック、食事、排泄、一日の過ごし方を記録し職員間で共有している。 日によっても発揮出来る能力が違うため、過ごし方も一人ひとりの体調に合わせている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度、CM、管理者、担当でケアカンファを行い、計画を見直している。面会時に家族から意見、要望を伺っている。状況が変化した際は、その都度見直し、職員間で共有している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に、その日の体調、生活の様子等、入力し職員間で共有している。課題等ある場合は、その都度話し合い、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科受診、病院受診、入退院時の対応や、衣類、生活必需品の購入等、出来る限りのサービスを実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練では、消防署の協力を得ている。地域の文化祭や自治会のサロンへ参加していただいているが、自立度の高い限られた方しか出来ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回湖北病院の地域連携医療を利用し往診がある。急変事はすぐに連絡を取り往診や受診をして貰っている。月1回中之郷歯科診療所の訪問診療を受けている。家族が希望される受診は、家族に対応してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職がおり、日々の様子を把握している。緊急時にもすぐ相談でき適切な受診、介護が受けられるよう支援している。ドクターメイトを活用し即座に必要な支援が行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護情報提供書で情報を送り、経過において常に相談できる体制を取っている。地域連携室と連携し早期退院出来る様に心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時と毎年、終末時における意思確認書を家族と取り交わしている。重度化した際には、Drから家族への説明と、事業所で出来る事を伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修を受講したり、看護師から指導は受けおり対応は出来るが、訓練を定期的に行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練等全員が参加している。年1回地域防災訓練に参加し、連絡網や協力体制を確認している。夜間想定避難訓練を行った。停電時の対策も職員間で話し合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時にはプライバシーの配慮に気を付けて対応している。一人ひとりに応じた言葉かけ、対応をするように気を配っているが、業務におわれて十分でない事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認できる声かけを行ってから、行動している、断られた場合は、無理強いないで様子を見ている。意思表示の出来ない方も、できる限り希望に添える様に様子を観察し判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のある程度の流れは決まっているが、その中で出来る限り本人の希望に添えるよう支援している。体調や気分の変化も汲み取れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整髪出来ない方には、起床時に職員が行うが、自身で服を選ばれたり、整髪しヘアピンを使用されている。訪問で散髪に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの物を把握し、口腔内の状態、嚥下状態も考えて提供している。日常的に机を拭いたり、お盆拭きをされている。巻き寿司、ぼたもち等一緒に作り、食べる楽しさを感じていただける様支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、職員間で共有している。個々の食べやすい形態(おかゆ、ミキサー、一口分等)にして提供。水分も好みの物を提供したり、こまめに声かけしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1回歯科任診で口腔内の状態をチェック。食後に、本人に口腔ケアを行ってもらい、その後、職員が仕上げ磨きを行い清潔を維持できる様に努めている。総義歯の方、うがいの出来ない方、等にも個々に見合ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で一人ひとりの排泄リズムを把握し、職員間で情報共有し、適宜声かけ、誘導している。介護度が高くて、支えがあれば立位保持出来る方はトイレで排泄出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけでなく、乳製品、寒天、野菜等食事の工夫や水分量を多くしている。歩行運動を取り入れている。出ない日が3日続いた際は坐剤を使用する方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に一度の入浴を基本としている為、職員の都合で時間を決めてしまっている事が多い。断られた場合は、時間をおいたり、日を改めたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動を促し、昼夜逆転しないよう支援している。ソファで休んだり、部屋に戻り休息されている方もいるが、必要以上の午睡にならないよう、職員が気を付けている。安眠できる様、室内温度や声のトーンなどにも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れのないように職員が薬の管理はしている。一人ひとりの状態に合わせて、粉錠に変更したり、減錠している。変更時は職員間で共有し利用者の様子は注意深く確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に、今までされて来た、梅干し、味噌、おはぎ作り等を一緒にしている。日々、洗濯物たたみ、洗濯物干し、お盆拭き、縫い物などされている。気候のよい時には外気浴、散歩をし気分転換を図ってもらった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には難しいが、桜や紫陽花見学、気候の良い時期には出来る範囲で散歩、外気浴、地域の文化祭やサロンへの外出が出来た。家族の希望、協力によりお墓参りや、近しい方のお見舞いに出掛けられた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かり職員が管理しているため、本人がお金を使われる機会はない。所持を希望される方もいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、家族と話しておられる。電池切れにならない様充電の支援をしている。家族宛てに暑中見舞い、年賀状を自筆で書いてもらい送る事が出来た。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし清潔を心がけている。リビングに季節の壁画飾りをして季節感を出している。トイレの臭い、温度調節、夜間の居室の照明など不快感のないよう気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で話して過ごされたり、ソファで休まれたり、自由に過ごされている。TVをよく見られる方は、見やすい席にしたり、利用者同士の相性等も気に掛けて席を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていたタンス、小物を持ち込んで、安心できる部屋作りをしている。訪問時の家族の写真や、昔の家族写真を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように、表札を貼っている。廊下やトイレに手すりをつけ一人で移動できるようにしている。自立度の高い方は、居室内に人感センサーライトを設置し安全に配慮している。		